

2024年04月16日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【気にかかること】

ドル/円が、このところの高値を更新して、154円台を付けています。

日銀・財務省による「介入」に対する警戒感が強いのですが、それ以上に、「円を売って、高金利通貨に投資する＝キャリートレード」が強い、と感じます。

+++++

今回のコラムは、少々「教科書」のようですが、そもそも論的な内容です

国と国の間での貿易や金融取引の決済に使われる通貨のことを、「基軸通貨」とか「国際通貨」と言います。

「国際通貨制度」について、考察します。

歴史的に見ると、国際通貨制度の基準になったのは「金 (Gold)」です。

金の保有を通貨の価値基準とする制度を「金本位制」と言います。

金を多く備蓄した経済力の強い国の通貨が、基軸通貨として使われてきました。

19世紀にはポンド (GBP) が、20世紀になるとドル (USD) が、基軸通貨として使われるようになります。

金本位制のもとでは、各国の通貨が、金と一定比率で交換されます。

つまり、金を介在させる「固定相場制度」です。

金本位制での固定相場制度は、通貨の裏付けとなる金の備蓄が前提です。

ところが、20世紀後半になると、財政難から英国や米国は、金本位制を維持するだけの金を保有することができなくなりました。

その結果、金本位制での固定相場制度から、現在の「変動相場制度」に移行します。

変動相場制では、通貨の交換レート、つまり外国為替レートが、マーケット (外国為替市場) の売買によって決まります。

変動相場制とは、マーケットで取引される通貨ペア（二種類の通貨）の交換比率（為替レート）を、一定比率に固定せずに、マーケットの需要と供給によって、自由に変動させる制度（システム）です。

変動相場制が採択され、制度が移行した当時、変動相場制は各国間の貿易不均衡を自動的に調整する機能を持つ、と考えられていました。

たとえば、米国の対日貿易赤字が拡大すると、それは、日本の輸出額が増大していることですから、日本からの「ドル（USD）を売って円（JPY）を買う」といったニーズが強くなります。

「ドル売り円買い」が増えるのですから、結果として「ドル安円高」の圧力が強くなって、ドル／円（USD/JPY）の為替レートが下落します。

そして、「ドル安」になれば、米国製品の輸出が増加し、「円高」によって日本製品の輸出が減少して、米国の対日貿易赤字は解消されるだろう、といった理屈です。

しかし、現実の世界経済では、こうした自動調整機能はうまく働きませんでした。

つまり、各国通貨間の為替レートは、必ずしも、貿易収支を均衡させる機能を果たしていない、ということです。

各国通貨間の金利差が外国為替相場に大きな影響を与えるなど、さまざまな為替変動要因が複雑に働いているため、為替レートが予想以上に不安定になることがあります。

しかし、そういった欠点を抱えながらも、主要通貨間の変動相場制は、現在まで維持されています。

もっとも、現在のところは、それに代わる、もっとよいシステムが考え出されていないだけで、今後、考え出されるのかもしれませんが・・・。

+++++

直近の相場では、ドル／円が最高値を更新したことは、文頭で述べましたが、それ以上に気になるのが、「金価格（Gold 価格）」の上昇です。

「金価格（Gold 価格）」の上昇が意味するのは、インフレによる通貨価値の下落、と考えます。

平たく言えば、全ての通貨価値が下落している、ということ。

もちろん、日本円の通貨価値が、対米ドルで大きく下落しているのは周知の事実であり、日本のニュースなどでは、それが大きくクローズアップされています。

しかし、そればかりに注目するのではなく、そもそも米ドルがインフレでその価値を下落させている、という事実に、気を配る必要があるのではないか？

と、危惧しているところです。

++++
++++

(2024年04月16日東京時間14:45記述)